教科	保健体育	科目	体育	学年	第1学年	系列 コース	共通
単位数	3 単位	教科書	現代高等保健体育(50大修館 保体-701)				
副教材	現代高等保健体育ノート(50大修館 保体-701)						

1. 学習の到達目標

<p>(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。</p>
<p>(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p>
<p>(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。</p>

2. 評価の観点

①知識・技能	<p>運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。</p>
②思考・判断・表現	<p>生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p>
③主体的に学習に取り組む態度	<p>生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。</p>

3.学習の計画

学期	月	週No.	学習項目(単元)	学習内容
1 学期	4月	1	オリエンテーション 体づくり運動 集団行動・北高体操 球技 サッカー(男子A) バレーボール(男子B) 卓球(女子A) ハンドボール(女子B) 武道 柔道(男子A) ダンス(女子AB) 水泳 体育理論	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができるようにする。 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて攻防を展開することができるようにする。 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、効率的に泳ぐことができるようにする。
		2		
		3		
		4		
	5月	5		
		6		
		7		
		8		
		9		
	6月	10		
		11		
		12		
		13		
	7月	14		
		15		
		16		
2 学期	8月	17	体づくり運動 球技 サッカー(男子B) バレーボール(男子A) 卓球(女子B) ハンドボール(女子A) 武道 柔道(男子B) ダンス(女子AB) 体育理論	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて攻防を展開することができるようにする。 感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、踊りの特徴と表現の仕方や運動観察の方法などを理解するとともに、イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表をすることができるようにする。 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解する。
		18		
	9月	19		
		20		
		21		
	10月	22		
		23		
		24		
		25		
		26		
	11月	27		
		28		
		29		
		30		
31				
12月	32			
	33			
	34			
3 学期	1月	35	陸上競技 長距離走 球技 サッカー(男子A) バレーボール(男子B) 卓球(女子A) ハンドボール(女子B) 武道 柔道(男子A) 体育理論	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けることができるようにする。その際、動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
		36		
		37		
	2月	38		
		39		
		40		
		41		
	3月	42		
		43		
		44		
		45		

4. 評価の方法

授業態度、出席点、スキルテスト、記録、定期考査の得点等日々の学習活動について、各評価の観点(①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度)ごとに評価する。学年末の成績は、各学期の成績を基に算出する。